

きらめき

プラス

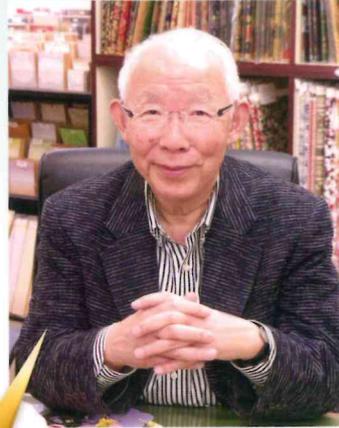
師走 Vol.28

特集「折り紙」

折り紙は日本の伝統文化であり、誰もが自由に楽しめるものだ

折り紙は泣いている

「おりがみ会館」館長
小林一夫【73歳】



生涯現役「医は愛」

福岡明【88歳】



オーストリアの
ウイーンから

ウイーンおりがみ協会



明治女が教えてくれた
きらめき人生の心得

石川真理子



いまここにあること

高橋哲郎【72歳】



白木塾

白木大五郎

士魂商才

守山淳

青勝の「追憶の名画」

青木勝彦

国宝探訪

米本薫

ならぬことはなりませぬ

川崎葉子

相撲道

松田哲博(元一ノ矢)

日本偉人伝「佐藤一斎」 鈴木隆一

心に寄り添い...



(1) THC mark nijman

トラベルヘルパー®の スマイルレポート

トラベルヘルパー®とは

トラベル+ヘルパー、お客様の介助をしながら外出支援するプロのエスコートサービスのことで
介護技術と旅の業務知識をそなえた「外出支援」の専門家です。

身体に不自由のある人や健康に不安がある人の希望に応じて、身近なおでかけから
介護旅行の相談、コーディネートまで、暮らしの外出に関わるすべての支援サービスを行います。



今回のスマイルレポートは、坂本久美子
さんをお届けします。

『思い出に残るトラベルヘルパー業務』

坂本久美子



トラベルヘルパーのお仕事は、ひとつひとつがそれぞれの思いがこもっています
ので、どのお仕事も大切にさせていただ
いています。

どれかひとつというのは難しいのです
が、今回は、あ・える倶楽部のチームワー
クがあったからこそできた素敵な介護旅
行をご紹介します。

その旅行は鳥の写真撮影(セミプロ
並み)を趣味にされていたお客様が
「以前写真撮影に回った所にもう一度
行ってみたい」という旅でした。

出発前にご希望が三つあり

1. セスナに乗って自分が鳥になった気分を
味わいたい
2. 鳥が沢山いる小清水原生花園にまた行っ
てみたい
3. ノロッコ号に乗り釧路湿原を走りたい

という三点でした。

相談スタッフが頑張って手配して下さっ
たのですが、1番のセスナは当日が整備
の為お休みに乗れないこと、そしてノロッ
コ号は指定席券が平日にもかかわらず
完売ということ、お客様の当日の体
調や電車の混み具合で決めるというこ
とになり、ご希望の二つが叶えられない
かもしれないというドキドキの出発し
た。

介護旅行を利用するのが初めてのお
客様は、どんな旅行になるのか心配と
不安と緊張の様子での出発でした。ト
ラベルヘルパーの私も一抹の不安が...

しかし、女満別空港から介護タクシー
に乗り、濤沸湖水鳥湿地センターに向け

てスタートするとお客様の目がキラキラ輝きだし、緑の美しさや鳥のお話などをして下さり、また、センターでは丹頂鶴の子育てを望遠鏡で対岸に見ることができ、とても喜んでくださいました。



2日目は楽しみにされていた一両編成のJR知床号への乗車です。乗車駅の網走駅にはエレベーターもエスカレーターもありません。でもここは相談スタッフが準備万端、事前に連絡して駅員さん四人が待機、昇り降りをお手伝いしてくださいました。そして降車駅にも2名の駅員さんが5段の階段を下りるために待機して下さっていたのです。



お客様はびっくり、介護旅行というものを改めて実感していただけた瞬間だと思います。

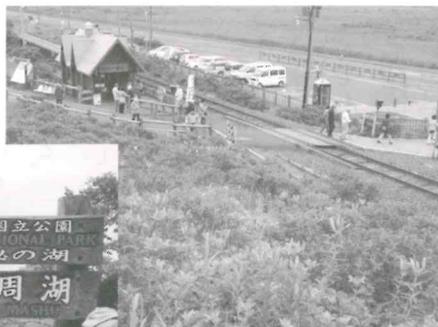
「この電車も乗りたかったので、乗れて本当に嬉しい」と、とても喜んでくださいました。

原生花園はちょうどお花がきれいで鳥も楽しんでいただくことができ、良かったです。

この後は途中観光しながら摩周湖に向かいました。

ここで活躍してくれたのが介護タクシーつばさの佐々木さんです。こちらにも頼もしい「チームあ・える」のスタッフとして素晴らしい介護力を発揮してくだ

さいました。何といっても階段を車いすで、するすると昇り降りする技はすばらしく、寒いといえば毛布が何枚も、頭がといえば枕が、雨がといえば傘とレインコートが出てくるというフォローも完璧でした。



そして最終日はご希望されていたノロッコ号を目指しました。

途中、「チームあ・える」の一つである宿の風曜日さんがお客様の為に事前に探してくださった多和平高原に寄りました。静かで鳥の音がいろいろ聞くことができ、ここでも喜んでいただくことができました。さらにお客様が驚かれたのは、トイレ休憩でした。ノロッコ号には塘路駅から乗ることになっていたのですが、ここは小さな駅なので車いす用のトイレがありません。相談スタッフの手配で、介護タクシー「まーぶる」の小野垣さんが途中のドラッグストアに車いす用のトイレがあることを調べて下さっていました。トイレを心配されていたお客様は、「ここまで事前に調べてくれるの？」とびっくりされていました。

トラベルヘルパーとして「チームあ・える」すごいでしょ、とちょっといい気分でした。



そして問題のノロッコ号です。お客様に旅行前から何回も「ノロッコ号に乗りたいたいですよね」と伺っていました。うなずかれる目には強い思いが込められていました。心配されるご主人様や周りの方々もいらつしゃいましたが、体調も思いのほか良さそうでしたのでトラベルヘルパーとして何とか乗せてあげたいという思いを強くしていました。

ところが駅に着いてみると、観光バスが何台も止まり、駅前は人であふれていました。お客様の口から思わず「これじゃ無理ね」と悲しげに言葉が漏れました。でもよくみると改札から降りてくる人達です。「もしかしたら乗れるかも」とタクシーを止めてもらい改札口に走りました。ここでトラベルヘルパーパワーを出さなくてはと駅員さんに状況を説明し交渉すると、「切符は後でいいから席を取ってきていいよ」ということで入場させていただき、まず席を確保。

今度はホームが短いため目的の自由席まで車いすでは行けないという問題が…。でも介護タクシーの小野垣さんは若くて体格もしっかりしているので、「お客様を席までおんぶしていただけますか？」と聞くと、「いいですよ」と即答していただきました。さすが「チームあ・える」のメンバーです。こうしてお客様の夢を二つ叶えて差し上げることができました。

とても喜んで下さるお客様を見て私

も幸せでした。

羽田に着くと「チームあ・える」の東京の介護タクシーの手塚さんがお客様の最後のご希望の空弁やお土産探しを手伝ってくださったたり、タクシーの中では車をフラットにして横になれるようにしてくださりました。おかげさまでお疲れのお客様はほっとされたようでした。

今回は介護旅行の「チームあ・える」の輪がとて素敵につながった旅行でした。帰路に着くころにはどんな旅行になるか不安そうだったお客様に「介護旅行ってすごいと思った」と言っていたきました。そして、この旅行に関わったすべての方達への感謝の言葉も沢山いただきました。

トラベルヘルパーの私にとっても、とてもやりがいのある思い出のトラベルヘルパー業務になりました。

お客様と「チームあ・える」の皆様にご感謝です。ありがとうございました。

ご旅行後に、ご主人様から

「お世話になりました。2人とも元気でやっています。ご支援を心から感謝しております。」

皆様によりしくお伝え下さい」

というお手紙と一緒に、ご旅行中に作成した短歌をいただきました。一部をご紹介します。



(篠塚千弘)

車椅子の妻を持ち上げ展望台へ

夫唱婦随の熱きドライブ

蒸しタオル入りポリ袋であお向きの

妻の腹部を温めし店長

ホームからはみ出る車輛(妻背負い)

身軽に歩む若きドライブ

A'EL
Act. Ess. Love

あ・える倶楽部

[介護旅行]



(株)SPI あ・える倶楽部

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂

1丁目19番13号トップヒル10F

TEL: 03-6415-6480(代表)

FAX: 03-6415-6488

MAIL: tabi@aelclub.com

※トラベルヘルパー®は、(株)SPI あ・える倶楽部の商標登録です。

トラベルヘルパーサービスが目指すのは、諦めていた外出を通してご本人やご家族の夢や希望を叶えること。旅行に特化せず、どんな小さな身近な外出でもいいから「諦めていた外出」を叶えること。人の可能性を削ぐものは、ただ唯一自分でもうだめだと思ってしまう気持ちだと言います。トラベルヘルパーサービスは、そこを手助けするヒューマンサービスだということをお忘れず、一人でも多くの方の夢や希望を叶えるお手伝いを広めていきたいと思えます。

常務取締役 篠塚千弘